

平成22年度日本赤十字社 災害救護訓練参加報告

10月14日(木)に学生75名、教員5名(稲垣准教授、萩原講師、本多講師、弓桁講師、堀川)および教務課職員2名(高田、小林両氏)の計82名が、災害救護訓練に傷病者役、搬送役としてボランティア参加しました。本訓練は赤十字社本部などが主催し、医療救護を中心とした広域支援活動を円滑におこない、相互に連携して統制のとれた災害救護活動を遂行することを目的としています。

午前中は、学生は希望により様々なけがを想定した傷病者役に割り振られ、どのような振る舞いをするかの簡単なシナリオを受け取り、けがの状況によってはリアルなメイクを施し、演技指導を受けました。教職員は搬送役に必要な傷病者の担ぎ方、移動法、搬送法などの講習を受け、訓練に備えました。



午後からは、現場トリアージおよび救護所トリアージ・治療訓練に参加しました。医師・看護師のグループが傷病者に対応しトリアージしていく設定、救護所へ運ばれたという設定訓練の中で学生はシナリオに従い、痛みを訴えるなど逼真の演技をおこないました。

学生は寒い中、現場できびきびと働く医師や看護師などの姿に自分たちの将来の姿を重ね合わせるとともに、災害時の医療現場での仕事の一端を知り、その任務の重要性を理解することができ、有意義な一日であったことと思います。

健康スポーツ科学教室 堀川浩之

乗馬教室開催

平成22年8月20日(金)、富士吉田昭岳舎内の馬場において乗馬教室が開催されました。この乗馬教室は地域の方々との交流を深め、昭和大学をより認知していただくために3年前からおこなっています。当日は富士吉田市に在住の小中学生が30名、保護者の方々が20名ほどご参加くださいました。



はじめに、馬の特性や接し方、騎乗方法を説明したうえで実際に馬に跨ってもらいました。馬上での子供たちはみな普段とは違う景色に驚きの声をあげていました。また、保護者の方々は乗馬独特の馬上での揺れに苦戦しながらも本物のサラブレットの動きや馬体の美しさに感動した様子でした。子供たちだけでなく保護者の方々にも貴重な夏休みの思い出のひとつとなったことと思います。

馬術部コーチ 渡辺 脩

吉田の火祭り

平成22年8月26日(木)、富士吉田に夏の終わりを告げる日本三奇祭のひとつ、北口本宮浅間神社の「吉田の火祭り」が今年も盛大におこなわれました。夕暮れどき、金鳥居の通り沿いに立つ松明は氏子たちの手により点火され、徐々に辺りが暗くなっていく中に無数の松明の灯が浮かび上がるさまは、まさに幻想的のひとつ。昭和大学では毎年この火祭りに松明を奉納しており、理事長・学長以下、教職員及び学生が松明の前で撮影をおこないました。



編集委員 高田中成

編集後記

あけましておめでとうございます。新年を迎え、学生も無事帰寮してくると同時に、いよいよ寒さが厳しくなってきました。さて、『白樺・百合』も発刊から約3年が経過、今号は初年次体験実習を含む秋以降の行事から、年末の学生主体の一大イベントである「クリスマスパーティー」までを記事とさせていただきます。今回初めての試みとして、ボリュームを6ページに増やしました。ご覧いただいた皆さんに、それぞれの行事をより鮮明にお感じいただけましたら幸いです。次号以降もより一層、内容の充実をはかりたいと考えております。今後とも『白樺・百合』をよろしく願っています。

編集委員 高田中成

管弦楽ボランティア

医学部 野田 淳 (暁星高等学校出身)

今年の管弦1年生の活動は寮祭での演奏、地域交流活動としてのボランティアコンサート、クリスマスパーティーでの演奏でした。ボランティアコンサートは、日々の練習の成果を初年次体験実習でお世話になった方々へのお礼の気持ちも込めて披露したいと、地域交流委員の先生にお願いし、実現した企画でした。11月3日に慶和荘で、11月16日に山梨赤十字病院でおこない、ともに約20名の部員が参加しました。そこには楽器経験者に加えて、大学に入ってからヴァイオリンなどを始めた人たちもいました。この8カ月の彼らの上達はめざましいもので、ぜひこの先も続けてほしいと思います。



プログラムは弦楽器全員の参加した弦楽合奏曲「カプリオール組曲」や弦楽四重奏、木管五重奏、ホルン五重奏などでした。利用者さんのためにと、みな緊張しながらも一生懸命演奏しました。コンサートの最後には演奏に合わせて施設の方々や「川の流れるように」の合唱をし、演奏中に利用者の方が感極まって涙してくださる場面もありました。その場の人全員が音楽を通じて音楽の喜びを共有しました。どんな障がいをもっていても、どんなに体が悪くても、どんな辛い状況にいても、音楽を演奏したり聴いたりすることで人は癒され感動します。私は8カ月間、1年生の管弦代表を務めさせていただきましたが、あらためて音楽のすばらしさを知りました。それと同時に自分の未熟さや、それでも自分を助けてくれる人の優しさに気づくことができました。富士吉田で得たたくさんの大切なものを胸に、医学と音楽ともに日々学んでいきたいと思っています。

1年生国際交流 PSU サマープログラムに参加して

医学部 木全正嗣 (愛知県立時習館高等学校出身)

私はPSU(ポートランド州立大学)サマープログラムに参加し、充実した日々を過ごしました。このプログラムは富士吉田に学ぶ1年生を対象として希望者を募り、三週間にわたって米国での生活を体験するというものです。しかし、ここで強調したいことが2つあります。1つは、この充実感楽しいことだけでなく、苦労や困難を経験したからこそ生まれたということ。そしてもう1つは、このプログラムは単なる「楽しかった旅行」で終わらず、日米の文化と医療に向き合う絶好の機会になったということです。



最前列右端が木全君

ホームステイ等で現地の人と会話をしたときは、英語での意思疎通に四苦八苦したのは勿論のことでしたが、何よりも自らの日本に関する知識の乏しさを痛感しました。しかし、「自分は知らない」という事実を「知る」ことで、以前よりも自国の文化に目を向けられるようになりました。現地の医療福祉施設の見学では、米国医療における光(最新技術)と影(無保険者問題)、ホームレス問題等について深く考えることができ、日米に限らず諸国の医療技術・制度への関心が強まりました。

今後はこれらの貴重な経験を教訓として活かし、良き医療人を目指して精進していきたいと思っています。

大学では学生の国際交流を推進するため、海外実習・研修補助制度を設けて積極的に支援しています。

白樺百合

昭和大学
富士吉田キャンパスだより
第11号 2011.1.20 発行

発行責任者 富士吉田教育部長 片桐 敬
編集責任者 富士吉田教育部広報委員長 倉田知光
〒403-0005 山梨県富士吉田市上吉田 4562
TEL 0555-22-4403



保健医療学部看護学科 高井美里 (茨城県立並木高等学校出身) 撮影

寮生活を楽しく有意義に過ごし、初心を忘れず誠実に信頼されるよき人! “まごころ”あふれる医療人に!!

昭和大学 百合寮寮監 横山晴美



昭和大学富士吉田キャンパスは昭和40年に男子寮『白樺寮』がスタートし、昭和42年に女子寮『百合寮』ができて二寮に。後に男子の『赤松寮』ができ、医学部、薬学部、歯学部の三学部で三寮。平成18年度より保健医療学部の学生が入寮し、女子の『すみれ寮』が増え、現在は四寮に四学部の学生が暮らしています。寮は、異なる学部の学生4人で一部屋です。共同生活をつうじて「人間形成の場」「社会学習の場」としてよき人を育て、建学の精神『至誠一貫』のもと、質の高い医療人の育成を行い、「まごころ」あふれる医療人を育てる昭和大学。

初年次の全寮制教育を支えるため、各寮に寮監が常駐しています。寮監は寮における生活面、健康面をサポートし、学生の不安や困ったことなどの相談にのり、みなさんが快適に過ごせる寮生活となるように配慮しています。寮監としては、大学生のみなさんが寮委員長を中心に委員の人達と協力し、有意義に寮生活ができるように見守り、励ましています。挨拶、ルール違反、マナー、自己管理・後始末、思いやりが欠けた無責任な態度など、学生同士での注意が困難な場合は様子を見て、寮監が憎まれ役となって登場します。優しさの中にもケジメをつけた指導。気が付かなくてしていたこと、繰り返すうちに他人の迷惑になること。こうしたことへの指導をきっかけに、よき人材のハートにふれ、善悪を考え正しい行動ができる誠実に信頼される人に成長されることを希望しています。

たくさんの友達との賑やかなガールズトーク、元気いっぱいダンス等を楽しんだ寮祭、クリスマス、綺麗な花火などなどの良い思い出ができ、寮生活を楽しんだことでしょう。入学当初の不安を乗り越えて成長。友達への思いやり、目配り、気配りとなってあらわれる成長に感心し、喜んでいきます。

締めくくりに1月の定期試験を悔いなく健康で乗り越えれば完全退寮。みなさんのテストと健康とを応援しています。『至誠一貫』、この素晴らしい昭和大学の精神と伝統を素敵な笑顔で受け継ぎ、誇りを持ち、初心を忘れず、誠実に信頼されるよき先輩となり、「まごころ」あふれる医療人として社会に貢献・活躍されますことを願っています。

広報誌名称について

全寮制を特徴とする富士吉田校舎学生寮は「白樺寮(男子寮)」「百合寮(女子寮)」の二寮からスタートしました。「赤松寮」「すみれ寮」を加えて四寮となった現在も、白樺・百合という名称は受け継がれています。この名を冠した「白樺・百合」という広報誌の名称には、過去・現在・未来の学生たちが日ごとに成長をどけて前進しつつも、常に初心を忘れず、伝統を受け継いでくれることへの願いが込められています。

クリスマスパーティー開催!

クリスマスパーティー実行委員長 保健医療学部看護学科 谷由樹奈 (福島県立橘高等学校出身)

今年のクリスマスパーティーは、いろいろな団体に出演してもらい、とても賑わった2日間になりました。ダンスや演奏や演劇などの発表が多くありましたが、スライドを使った各寮のフロア紹介といった新しいスタイルの発表も、とても好評でした!!

「クリスマスパーティー実行委員会」としておこなったイベントでは、進行を円滑に進められなかったことや様々なアクシデントでたくさん迷惑をかけてしまいましたが、みんなには楽しんでもらえたようです。とくにフィナーレで流したスライドショーは、感動して泣いてしまう子もいるくらいすごくいいものが仕上がりました。また、フロア対抗戦では各フロアの代表者が身体を張った競技(?)をしていて、観客側も楽しめていたようでした!

本番までに装飾が間に合わず、有志団体の発表の裏で作業をおこなったり、装飾がはがれおちてしまったりなどのハプニングもありましたが、完成したものはとてもクオリティーの高いものでした。

クリスマスパーティーの最後を締めくくる花火では、低予算であるにもかかわらず、寮祭の花火に劣らず、大盛況のうちに終わることができました。

クリスマスパーティーをおこなうにあたり、お世話になった先生方、教務部の方、寮監さん、ポイラーさん、食堂の方、栄養士さん、本当にありがとうございました。委員になってくれた人は、少人数のなか頑張ってくれてありがとう!! お疲れ様でした!!

クリスマスパーティー、大成功です!!





初年次体験実習

薬学部 鈴木奈緒 (私立光塩女子学院高等科出身)

9月2日から17日にかけて、平成22年度初年次体験実習がおこなわれました。これは将来のチーム医療を担う一員としての意識を高めるために、1年生の時から現場の雰囲気を体験できるという貴重な機会です。

共通実習では医学部、歯学部、薬学部、保健医療学部(看護、理学療法、作業療法)の4学部合同で5人のグループを作り、病院実習、福祉・高齢者介護施設実習、救急救命法実習を、学部別実習では、各学部の将来的な業務を見据えた内容をもつ、特色ある実習を行います。

病院実習では、実際の手術現場を見学させていただき、最初はドラマでしか見たことのないある種の奇妙な空間に戸惑いました。ですが、終わってみると、人間の生と死や命の重さ、そして医療がなすべきことについて考えを深めるきっかけとなったと思います。また、患者さんの立場ではなく職員の立場から病院内を見て回れたことで、職場のよりリアルな仕事ぶりを実感でき、将来の医療人としての責任感やモチベーションを高めることができました。

福祉・高齢者介護施設実習では、食事介助や入浴介助など、今までにない経験をすると共に、コミュニケーション力の必要性和重要性を強く感じました。そして、事前の下調べで学んでも、それは知識にしかすぎず、実際に自分の目で見、体験することで初めて得られることの大きさを知りました。

この実習を通して、医療人にとって大切なことは自らの思考だけに囚われず、常に相手の目線に立ち、誠意をもって目の前のものごとに向き合うことである、と自覚できたと思います。

約2週間という短い期間の実習でしたが、得たものは大きく、このような機会を与えてくださった病院の職員の方々や福祉・高齢者介護施設の方々、昭和大学の先生方、そして何より、私たちのために見学を承諾してくださった患者さん、施設利用者さん方に、深く感謝しています。



病院実習

現場の緊張感を肌で感じました



真剣なまなざしで薬局体験



施設実習



季節の味覚を楽しみました



BLS講習 (心肺蘇生法とAED)



救急法



いざというとき役に立ちたいですね

